

私の推薦図書①ドラッカー

企業経営漫談士 岡野実空

「経営」セミナーを担当して、受講者から受ける質問の定番は、そのテーマに関する推薦図書。ここからしばらくは、これまでお答えしてきたさまざまな書籍の中から、テーマ別に3冊ずつを厳選し、簡潔な理由とともにご紹介していきます。その初回は、質問数断トツのドラッカー関連本。以下は、政治・経済・文化などの「社会論」を除いた、その「マネジメント論」の3冊です。

①『チェンジ・リーダーの条件』

ふつうなら『抄訳マネジメント』か『現代の経営』が座るべき頭に、あえてこの本を持ってきた理由は、その冒頭の「日本の読者へ」と「はじめに」を、皆さんにまず読んでいただきたいから。それは、ドラッカーを学ぶ意義の集約。いまの世界中の混乱を見るにつけ、「マネジメント」が単なる「経営」の専門技能から、あらゆる分野の「一般教養」として修得され、すべての組織で実践される日が、一刻も早く訪れることを願うばかりです。

またもう一つの理由は、長年その著作の翻訳に当たってきた、上田惇生氏の功績に報いるため。これは氏が泰斗とのやりとりをつうじて、その膨大な成果を再編集し、「はじめて読むドラッカー」として世に送り出した四部作のうちの一冊(マネジメント編)です。(他は、自己実現編、社会編、技術編)それらは日本発の世界的ベストセラーとなり、泰斗の「思想」の体系と真髄が、世紀を跨ぐ普遍的な価値を持っていることが確認されました。

②『知の巨人 ドラッカー自伝』

ドラッカーの「思想」に触れると、必然的に知りたくなるのは、それが生まれた背景。「知の巨人」を生み出した家庭や教育環境、その後の経歴などに加え、その時代背景を知ることは、その「思想」を深く理解するために欠かせないものです。

この本は2005年2月、日本経済新聞に連載された「私の履歴書」の原稿に、その翻訳者である牧野洋氏が、インタビューのこぼれ話や解説を加えたもの。そこでは、混乱の欧州に生まれ、米国に移住して世界に羽ばたいた巨人が、我が国とどのように関わっていたかを知ることができます。また文庫化される前の図書の原題が、『20世紀を生きて』であったように、この本はドラッカーの生涯を柱とした、政治、経済、文化、そして企業経営にわたる、コンパクトな前世紀の通史でもあります。

① はじめて読むドラッカー【マネジメント編】

チェンジ・リーダーの条件

P.F.ドラッカー著 上田惇生編訳 ダイアモンド社

② 知の巨人 ドラッカー自伝

P.F.ドラッカー著 牧野洋訳・解説 日経ビジネス人文庫

③ P.F.ドラッカー 理想企業を求めて

E.H.イーダスハイム著 上田惇生訳 ダイアモンド社

③『P.F.ドラッカー 理想企業を求めて』

晩年のドラッカーから指名されるという名誉に預かった、戦略コンサルタントのイーダスハイム女史が、泰斗およびその大きな影響を受けた人々にインタビューしてまとめた、珠玉の遺言、追悼文集。その膨大な著作や発言から厳選された数々の名言は、私たちが激動の時代を生き抜くために、さまざまな示唆と力を与えてくれます。

従ってこの本は、ドラッカー自身が頻りに受けた質問、「最高の自著は？」への回答、“The next one”に準ずるものといっても過言ではありません。その集大成はまさしく、距離と境界がなくなっただけの世界の「一般教養」であり、企業やその他あらゆる組織の「マネジメント論」であるばかりでなく、現在の行き詰まりを打破する「社会論」としての道筋も示しています。

さて新型コロナウイルス禍で一気に加速した、社会の大変換。ドラッカー本人の言葉をそのまま借用すれば、「重要なことは、『すでに起こった未来』を確認することである。すでに起こってしまい、もはや元に戻ることはない変化、しかも重大な影響力をもつことになる変化でありながら、まだ一般には認識されていない変化を知覚し、かつ分析することである」。

皆さんおよび組織の今後は、その宿題への取り組み次第。さあ、始めましょう！

2021年4月12日 実空